

会 議 録（確定稿）

会議名称	第三次西東京市地域福祉活動計画（第 10 回）策定委員会
日 時	平成 25 年 10 月 29 日（火）午後 7 時～9 時 50 分
会 場	田無総合福祉センター 2 階視聴覚室
出席者	（策定委員） 熊田委員・内田委員・成田委員・小松委員・土方委員・高橋委員・高梨委員 白倉委員・三輪委員・伊佐委員・畠山委員・鶴澤委員・田中委員 （事務局） 栗山・齊藤・丸木・鈴木・鶴野・妻屋・長谷川・関根・利光・八阪・廣瀬 （コンサルタント） 田口・渡邊
欠席者	田谷委員・岩崎委員・陸名委員・尾崎委員
会議次第	< 次第 > 1. 委員長挨拶 2. 資料確認 < 議題 > 1. 前回会議録確認 2. 基本目標について（提案） 3. 市民懇談会等について（説明及び質疑） 4. 基本目標のポイントの検討（グループワーク） 5. その他 ・第 11 回策定委員会について
配付資料	< 事前配付資料 > 資料 1：第 9 回策定委員会会議録（未定稿） 資料 2：今後の計画検討の流れ 資料 3：第三次地域福祉活動計画の体系（案） 資料 4：市民懇談会等の取り組みについて 資料 5：西東京市第三次地域福祉活動計画策定に向けてヒアリングシート（案） 資料 6：西東京市・既存調査資料の抜粋（ダイジェスト版） 資料 7：グループワーク資料 資料 8：具体的取り組み落とし込みシート 資料 9：第 9 回グループワークまとめ資料 < 確定稿会議録 >：第 8 回策定委員会確定稿会議録 < 基礎資料追加分 > 西東京市・既存調査資料の抜粋 < 当日配付資料 > 第三次西東京市地域福祉活動計画第 10 回策定委員会グループワークメンバー表

	ご案内： 第5回西東京市「介護の日」のイベントチラシ つなげる・まちづくりサミットチラシ こそだてフェスタ@西東京チラシ 世田谷×西東京こそだてコム説明会チラシ 市民懇談会のお知らせ
結 論	◆決定事項 1. 前回会議録は、指摘事項を修正し、確定稿とする。 2. イベントにおけるヒアリングについては、基本目標のポイントを市民に掲示する方向で進めるが、ポイントについては、第10回会議にて確定した文言を使用する。 3. ヒアリングの方法については、イベント等でのシール投票に加えて、委員の協力を諮る方向で検討する。
	<次第> 事務局より、開会の挨拶に続いて、欠席委員の報告、実習生の紹介を行った。 1.委員長挨拶 委員長：10月末となり、今年の会議開催は本日を含め残り3回となった。本日はグループワーク時間を普段より長く設けているので、よろしく願いたい。 2.資料確認 事務局より、当日の資料確認が行われた。 <議題> 1. 前回会議録確認 委員長：事前に送付した未定稿会議録について、委員より「子育てフェスタ」の表記を「こそだてフェスタ」に修正するようご指摘をいただいた。この他に修正箇所に関してご指摘はないか。 (委員からの異議無し) 委員長：他に指摘箇所がなければ、修正をもって確定稿とする。 2. 基本目標について（提案） 事務局より、資料3及び資料5を用いて、委員に対し基本目標に関する提案を行った。 委員長：今後、市民に意見をいただく上で、各基本目標の意味について確定しなければならない段階に至っている。資料3に記載されている基本目標のポイントは、第8回策定委員会の議事録での委員による発言を基に重要なポイントをまとめている。ポイントとして書かれている内容に関して、基本目標の趣旨がポイントに反映されているかどうか確認したい。また、追加したい文言等があれば併せて承る。

	委員：事務局からの提案によれば、資料５のような様式に市民が基本目標を選んでシール貼りを願うという趣旨が読み取れる。資料３において、基本目標の文言に一部、二重下線が引いてあるが、基本目標２「みんな笑顔でくらすまち」については基本目標の文言にはない「理解する」に二重線が引かれている。「理解する」は「みんな笑顔で」とイメージの上で結びつかない。資料５の様式で各基本目標を提示する際に、基本目標２から「理解する」を連想する市民は少ないように思える。 委員長：他にお気づきの点があればお願いしたい。 委員：資料３について、第８回議事録を基に趣旨が記載されている。基本目標１での「助けが要らなくなったときに…手を引く」ことや基本目標２での「その人の受容や個人を認める」こと、あるいは距離感をもっている家族等についてはほとんど「ポイント」に反映されていないのではないかと。短くまとめる必要があることを加味したとしても、現時点の「ポイント」からは、基本目標のもつ本当の意味が読み取りにくい。「家族のような」という文言に関しては、前回の委員会で議論となった。ところが、「ポイント」においては「お隣さんを『家族』の一員のように感じ」とあり、適度な距離感ではない意味合いのみが記載されている。 委員長：両者の意見について、事務局から回答をお願いしたい。 事務局：「理解する」と「みんな笑顔で」が結びつかないというご意見、また、家族の適度な距離感に関するご指摘があったが、ふさわしいフレーズがあれば委員から出していただきたい。用意した資料は確定の内容ではないので、委員の方からご指摘があれば修正させていただきたい。 委員長：今後、作業を進めていく上で、５つの柱である基本目標を市民にどのように伝えるかという点を考えることが重要である。基本目標２を例に挙げるとすれば、先ほどのご意見は、基本目標の文言に「理解」を追加するという認識で間違いないか。基本目標の文言自体も再考しながら作業を進めることになる。また、並行して、アンケートの実施を予定している。イベントで基本目標とその「ポイント」を提示するためには、イベント初日までに「ポイント」を決定させる必要がある。何か提案があればお願いしたい。 委員：資料５では資料３の二重線が削除されているが、資料５で二重線を示すのではどうか。 委員長：そもそも、基本目標の文言のままでよいのかという議論がある。とはいえ、ある程度の見込みがあれば、この段階で承認への決断が求められる。基本目標のもつニュアンスについては各委員でご意見があると思うが、計画の内容で掘り下げることでご了承いただけないか。 委員：つまり、アンケートでは、ニュアンスまでを言及しないということか。 委員長：計画の中でニュアンスを取り上げる方向で考えている。というのも、家族における「適度な距離感」を市民が読んだときに、疑問や意見が出る可能性がある。「家族のようにつながり」については委員会の中で議論が
--	---

	あったので、説明する必要があることは一方では順当と考えられる。「家族」のもつ意味合いについて計画書の中でどのように反映させるかを考えるべきではないか。 委 員：この段階で基本目標の意味を提示しないと、アンケートの際に市民が各基本目標を目にしたとき、文言のもつ意味合いを正しく理解していただけない可能性がある。 事務局：基本目標の趣旨が理解されないまま市民にアンケートとしてシール投票を行うことは第一の問題として挙げられるが、第二にアンケートを実施する目的が何であるかを明確にするべきだと思う。シール票数は何を示すのか。アンケートの目標がはっきりしていない。市民への地域福祉活動計画の周知を図るためにアンケートを行うのか。それとも、市民にこの基本目標による地域福祉活動計画の策定を評価してもらうためのアンケートなのか。アンケートで住民に理解をしてもらうことが狙いならば、基本目標の提示に加え、基本目標の「ポイント」あるいは趣旨を記述することが必須と考える。これは、基本目標が決定する経緯を示していることにもなる。 委員長：この点について、事務局より説明をお願いします。 3. 市民懇談会等について（説明及び質疑） 事務局：議題２でいただいた意見について、議題３と関連させながら市民懇談会の説明を行う。その上で委員の方に議論をしていただきたい。 事務局より資料４、資料５を用いて市民懇談会等の説明を行った。 事務局：目標に対する関心度の高さについて、市民からヒアリングを行う。シールの票数によって基本目標の優劣を決めるのではなく、市民がどのような関心を持っているのかを図るためにアンケートを実施したい。シールを貼っていただくとともに、基本目標における具体的取り組みについても、可能であれば聞きたいと考えている。 委員長：資料４の中で「①イベントでのヒアリング」が議論の内容に該当すると思われる。事務局によれば、シールの票数によって基本目標が削除されるというわけではないとのことであった。市民の関心の傾向を把握するとともに、地域福祉活動計画を策定することを伝えるツールとしてアンケートを実施するというような説明内容であった。いずれの場合も、各委員が基本目標について説明ができることが求められる。また、アンケートへの文言の載せ方を検討する必要がある。 委 員：事務局からの説明として、アンケートの実施目的が市民の関心度をみるためだとあったが、これに対し、委員長によれば、同時に周知のツールとしてアンケートを実施したいという説明があった。ツールとして実施する場合、確定した基本目標を提示するのか。それとも、今後、文言が変更する可能性もあるのか。 委員長：議論の余地はあるが、委員長の見解として、原則的に基本目標が確定したら変更はしない方向で考えている。基本目標が策定委員会の中で出て
--	--

	きたものであることをふまえて文言を重視することは大切である。その一方で、基本目標を市民に伝える際、どのように理解されるかという点も検討していただきたい。 委 員：市民が基本目標を目にしたときに分かりやすいことが求められるということか。そうであれば、関心度の高さをみることはアンケートの趣旨として筋が違うのではないか。 委員長：基本目標を見ながら関心についても質問を行うことを予定している。関心度の低さがすなわち基本目標への関心度の低さを意味するのではない。市民の関心について問うとともに、計画としてはすべての基本目標にぶら下がる取り組みを策定する。アンケートを通して、このような地域福祉活動計画の存在を知ってもらうという効果が期待される。 委 員：懸念事項として、基本目標が変更された場合、市民が疑問に思うということが挙げられる。市民アンケート時点の文言が変更されると、市民に指摘される可能性があるのではないか。 委員長：アンケートの中で基本目標の文言が分かりにくいという意見があった場合に、必要に応じて変更することも考えなければならない。アンケートを、フィードバックを含めたものとして設定し、また、アンケートをパブコメの一部として位置づけたい。一般的なパブコメに対して、本計画においては意見に応じて変更を行うことができるようなパブコメを実施することについて、前回の策定委員会で委員よりご賛同いただいていると理解している。 委 員：市民に意見を聞きながらアンケートを実施するということか。 委員長：今回は、アンケート調査を実施していない。市民における関心の傾向を読み取りたいという事務局の意向によりこのようなアンケートの手法が提案されている。 委 員：5つの基本目標にシール投票を行うことに関して、市民が基本目標のみを目にした場合、それぞれが抽象的であることから、意味が伝わらないように思われる。そこで、「ポイント」を記載することが重要となる。その際、第8, 9回目の委員会でのグループワークを経て発言された委員の声を反映し、委員が肝であると捉えている内容を「ポイント」とすべきである。 委員長：現時点で、「ポイント」がまとめられすぎているというご指摘に関しては、今後検討が必要である。資料3にも記載されている第8回議事録に基づく文言を「ポイント」に反映させるのはどうか。 委 員：そのようにすれば分かりやすくなるはずである。 委 員：市民向けのアンケートを実施する場合、前回委員会でも触れたように、5つの基本目標の中で基本目標1「必要なときに助け合えるために」は他の基本目標とは異質であるように感じる。その他の基本目標については、体言止めとなっている。これでは、市民の目には基本目標に沿ってどのような内容を推進するのか想像しにくいのではないか。そこで、「必
--	--

	要なときに助け合えるまち」などの変更を行った上で整合性を図る必要がある。また、いかなる目的でのアンケートであれ、市民にシールを貼っていただくからには、基本目標のポイントの説明は不可欠である。必ずしもすべての市民が福祉に関心を持っているとは限らないため、基本目標を分かりやすく提示する必要がある。 委員長：基本目標 1 を体言止めに變更し文末を統一すること、一般市民を配慮したアンケートとすること等のご意見については事務局としてどのように考えるか。 事務局：現時点では空欄である資料 5 の「ポイント」には、資料 3 に記載されている第 9 回グループ討議結果である 1, 2, 3 の文言を活用するという意見があった。この他に、上記では「ポイント」として不十分であるという意見として理解してよいか。 委 員：資料 3 の 1, 2, 3 をそのまま挿入すべきであるという意味ではない。第 8 回においてもまた、資料 3 に記載されていないけれども趣旨となる発言があったので、趣旨を拾い直して「ポイント」とすべきである。委員が本当に言いたかったことを「ポイント」として反映してほしい。 委 員：アンケートを行う際、「ポイント」をただ並べるだけでは市民は読まない。ぱっと見たときに市民に読んでもらえるように、簡潔にまとめた方がよいのではないか。 委 員：以前の委員会でも同じように指摘したことではあるが、委員が述べた大事な言葉を事務局によって勝手にまとめてほしくない。まとめたのであれば、文言を出した思いをもつ人が直接まとめるべきである。 委員長：今回の「ポイント」に関する提案については、委員の思いを十分に汲み取っていないことが意見としてあるので、「ポイント」案を却下する方向で考える。まとめてしまうと、抜け落ちる点もある一方で、すべてを載せると市民にはわかりにくくなる。その点についてはどのように考えるか。提案があればお聞かせいただきたい。 委 員：例えば、15 字以内にまとめるという指示を委員に出せば、まとめることは可能である。 委員長：その案で進めるか。 事務局：11 月 11 日の介護の日に初めてアンケートを提示する予定である。それまでに委員の合意をいただければと思う。意見としてあったように所定の字数内で「ポイント」を決めるのであれば、本日の会議で意見をいただく、あるいは別の方法で後日打診していただくという、いずれかで承認をいただきたいと考えている。 委員長：介護の日に間に合わせるように調整をする場合、残り 10 日しかない。重要な論点であるため、この論点について当初予定のグループワークに置き換える形でよいか。 委 員：大事にすべき点を取り違えているように感じる。委員が納得しない内容
--	---

	で、とにかく介護の日に提示するという形ではなく、たとえ初回の期日が後倒しになったとしても、委員が納得することが大切である。その点をどのように考えるかは、事務局の判断である。 事務局：資料説明が不十分であったという反省点がある。資料はあくまで案として示すものであって、これに対し委員からのご意見をお願いするという想定であった。「ポイント」に委員の意見が反映されていないのであれば、ご意見をいただいた上でそれらを反映させていきたいと考える。 委員長：資料3の「ポイント」は委員の意見が反映されていないので見送る方向でよろしいか。 (委員からは異議無し) 委員長：介護の日に間に合わせることで、より多くの市民から意見をいただきたいという事務局の意向があったが、本日、「ポイント」について検討を行わない場合は、アンケートの確定が次回の委員会後となるため、最終日の「こそだてフェスタ」にも間に合わないことになる。すると、アンケート実施が困難となる。本日意見をいただく時間を設けるか、あるいは当初のグループワークを行った上で別の方法をとるといいうずれかについて、意見はあるか。 委員：関心度の高さを分析する、あるいは周知を図るというアンケートの目標を掲げるのであれば、アンケート実施予定のイベントについて考慮が必要である。例えば、こそだてフェスタへの来場者については、じっくりアンケートに答えられる人は多くないと予想される。回答者が時間のない中で、適当に回答するケースも出てくるのが懸念される。NPO 市民フェスティバルについても、「一般市民」はあまり来場しない。市民にアンケートを実施することを予定しているのであれば、これらのイベントを対象にすべきか再検討するべきではないか。まずは、アンケートの趣旨を明確にするべきである。 委員：介護の日のイベント、障害者福祉センターの文化祭には、福祉に関心のある人が出かけていくことを踏まえるべきである。ふれまち住民懇談会も、特定の問題意識を共有している人びとであり、一般市民ではない。さらにいえば、市民懇談会はチラシを読んだ上で、会場まで足を運ぶ人びとであるため、福祉に関心がある人と思われる。以前、都市計画イベントの際に公民館のロビーでパネル展示をしながらアンケートをとった事例があるが、関心のない人も回答をしている様子が見受けられた。「一般市民」からアンケートをとらないと、市民の意見は聞けないのではないか。 委員長：イベントに来場するメンバーは一般市民ではないという意見が挙げったが、どのような手法をとれば市民の声を聞くことができるか。 委員：社協のHPでパブコメの手法をとったことはないか。 事務局：HP上でパブコメを実施したことはないが、活動計画を策定する過程で、社協だよりにはがきを添付した上で意見の募集を行ったことはある。
--	---

	委員長：HP 上でのパブコメを事務局で検討してもよいかと思う。社協ブースを借りてアンケートを実施することについては、反対意見も多いように受け取っているが、実施するべきでないと思えるか。 委員：一般市民にアンケートを実施する場合、通常 40%程度の回収率しか見込めない。関心のない人が多いのが現状である。それでも、地域福祉を推進するためには、ふれあいのまちづくり住民懇談会に参加している人や、介護の日のイベントに来る関心の高い人の力は必要である。そのため、一般市民への啓発と、ふれあいのまちづくりの活動をより一層、盛り上げるという意味合いで、ヒアリングは重要と考える。少しでも市民の心に残ることが第一歩であると捉えている。 事務局：委員はアンケートを実施すべきでないという意見を述べたのではなく、イベントでは「一般市民」の来場が期待できないという意味であり、福祉の活動を行っている人、関心のある人のニーズが把握できるという意味と認識している。そのため、一般市民への周知という目的をこの手法では果たすことが難しい。一般市民への周知を図るという目的があれば、公民館で展示を行ったり、市民まつり、スーパー等でアンケートを行ったりするという手法が必要となる。福祉とは関連がなく、かつ、人の集まる場所で実施することが望ましいという旨の意見だったのではないか。 委員：アンケートを実施するべきでないと述べたのではなく、事務局案の手法であると、バイアスがかかっていることを意識してほしいということを指摘したかった。一般市民である委員自身がアンケートを実施するのではどうか。社協が実施することよりも、委員自らがアンケートの協力を市民にお願いした方が効果的なのではないか。このようにして、別の手段を考えるべきだと思う。 委員：アンケートの趣旨がぼやけているような気がする。アンケートの実施は、後付けのためなのか、それとも、新たな意見を引き出すためなのか。また、経験上、このような手法のアンケートはほとんど参考にならないと考える。深く考えずに回答するケースが多く、それぞれ意味を持つフレーズを読み込んでもらえないことが予想される。委員自らが実施するアンケートの方が確実ではある。 事務局：資料 4 もあくまで案なので、たたき台として意見をいただきたいと考えている。アンケートにバイアスがかかっているというご指摘は了解した。別の手法が提案されているが、検討していただいた上で方向性を決定できればと思う。 委員長：これまでの議論をいったん整理する。1 点目は、資料 5 のアンケートについては、基本目標にかかわる「ポイント」の作成が必要である。ただし、資料 3 にある事務局提案の「ポイント」の案は見直す。2 点目として、アンケートの意図は、計画を策定する過程で、議論しまとめた内容を市民に見ていただき、修正すべき点を反映することである。ただし、シールを貼るだけでは物足りないので、シール貼りは関心を聞き出すための手がかりとして考える。3 点目として、アンケートの手法と対象が合致していないということを受けて、改めてイベントにおける社協ブースでアンケートを実施する場合の方法と対象を検討する。シール投票と
--	--

	いう手法が支持されるのであれば、さらにどのようなアプローチが望ましいかを考える必要がある。アンケートに関するご意見をいただいた上で、基本目標の「ポイント」について議論したい。アンケートの手法についてアイディアがあればお願いしたい。 委 員：基本目標が市民に伝わるかを確認する、というアンケートの趣旨があるのならば、アンケートの実施は行うべきである。ただし、関心度を、シールを貼ることで調べるという手法については、関心度の高さと、市民に文言が伝わるかということは、分けて考えたほうが良い。また、期日を決めて、委員自身が市民にヒアリングをし、ひろい上げた意見を事務局に返す、という手法に自分は併せて賛同する。 委 員：これまでの策定で市民から広く意見を聞けていないという実情がある。また、地域福祉活動計画は、活動を求める計画である。そのため、アンケートが案で提示されているように市民周知を含めてどのような考えなのかを調査するという趣旨なのであれば、上記の理由を含めてアンケートの実施が求められる。市民まつりでは、さまざまな団体がアンケートを行っている。シール投票にこだわらずに、委員の協力、市民まつりの活用などを検討してはどうか。そこで収集した意見を再び計画に反映させるべきである。丁寧な意見聴取が必要と思われる。 委 員：活動計画は市民に浸透しているものではない。計画に市民の意見が反映され、それを5年かけて計画で実現していくことは、とても大切な取り組みであると思う。まず今回、ヒアリング調査を行うことで、福祉に係る人にもない人にも、活動計画について目を留めてもらうだけでも十分な成果だと思う。 委 員：例えば、基本目標を提示した上で市民にその基本目標に対して思い浮かんだイメージを書いてもらうのではどうか。市民がもつイメージと、委員が示すイメージが大きくずれていなければ、現時点での基本目標で伝わるということになる。付箋に貼ってもらうなどの手法を用いれば、市民とのギャップが分かると思う。 委 員：まずは、基本目標のポイントを決める必要があるのではないか。 委員長：委員からの意見として、まずはアンケートを行うという方向に傾いている。シール投票のみにせず、記入するという幅を持たせるなど、手法については事務局で持ち帰った上で検討が必要となる。アンケートの実施についてはご了承いただけるか。 (委員から異議無し) 委員長：イベントでのシール投票のみでは不十分なので、委員のネットワークを活用したアンケートという形態についてもご協力いただきたい。この点について、ご了解いただけるか。 委 員：次回委員会までにアンケートを行うということか。 委員長：次回委員会までに検討するということである。
--	--

	委 員：回収日の期限はどのように考えているか。 事務局：11 月に提案を行うが、12 月末に委員会を予定しているため、遅くともそれまでにご持参いただきたい。ただし、設問数にもよるので、まだ確定ではない。 事務局：資料 4 では 12 月 14 日がヒアリング等の最終日となっており、事務局としては、それまでに意見を収集したい。12 月 14 日以降の場合、12 月の委員会には提示できないため、資料 4 にあるスケジュールに対応することをお願いしたい。 委員長：アンケートの設問について委員からもご意見をいただきたい。今後の取り組みとして予定していただければと思う。また、基本目標を決定したという現段階で、資料 3 のように基本目標の意味が提示されているが、このような「ポイント」については委員で検討していただきたい。本日は、当初の予定を変更する。進行方法については事務局から何かあるか。 事務局：十数字以内で、委員で出した思いを今一度、出していただきたい。 委員長：簡潔なフレーズで説明を考えていただきたい。 4. 基本目標のポイントの検討（グループワーク） 事務局より、グループワークの班分けについて説明を行った。 その後、各グループで基本目標の変更及び作成したポイントの確認を行い、全体で共有した。 [A 班] 委 員：基本目標 1「必要なときに助け合えるために」については「“おたがいさま”が活きているまち」に変更した。この目標には、「お互い様」が、まちで常に活用されているという思いが込められている。基本目標を変更した背景には、不評であったことが第一にある。ただ、変更後も基本目標に込められる思いは一緒である。まちのなかで「お互い様」が活きている実績がある、経験されているということを表現したかった。既に実践されており、さらに広めていくという発想のもとに基本目標を考案した。 [B 班] 委 員：基本目標 2「みんな笑顔でくらせるまち」については、変更はしない。目標の趣旨は、資料 3 に記載されている第 8 回の言葉と一致しており、分かりやすいのではという意見が出た。困っていること、寂しいことを乗り越えたときに笑顔があるという当初の思いに対し、乗り越えられない人もいるという意見があった。乗り越えられない人がいても互いに理解すること、また乗り越えられないことに共感することが笑顔につながる、ということが話の核となった。 委 員：基本目標 3『『一歩前へ』を後押しする情報発信』の「発信」に対して抵抗があったため、『『一歩前へ』を後押しできる情報があるまち』に変更
--	--

した。基本目標の意味合いとして、基本目標2と同様に、第8回で取り上げられた内容の中で「一歩前へ」行動を移す、ということではなく、気持ちの意味合いで述べている。というのは、引きこもりや障がいのある人、家族の介護を行っている人、あるいは学校に行けない子どもとその家族など、外に出られない事情のある人びとが、自分から興味のあること、助けてほしいこと、自分から変えたいことがあると思ったときに、一歩前に出るための情報があふれるまちをイメージしているためである。この他に、買い物帰りの人びとや、送迎バスを見送った後の保護者が立ち話をするような場にも情報の輪やネットワークの可能性があるのでないかという議論になった。

【C班】

事務局：基本目標4「家族のようなつながりのあるまち」については、グループ討議の結果に基づき議論を行った。項目の2と3を合わせて考えると、お世話焼きさんを増やしながらかつある居場所をつなかりをつくるということになる。さらに「ふれあいのまちづくりの推進」が大切であると考えたので、「ポイント」に追加した。

委員：基本目標5「ひとりひとりがイキイキできるまち～輝こう！スキップしよう！」については、人がイキイキするときは役割があるとき、人から認められたとき、また、自分の居場所が見つけられるときである。また、出番があるときには自信がもてる。さらには、人のために役立つことがあるとうれしい。これらをまとめて、「一人ひとりが『イキイキ』と『輝ける』出番をつくる」という「ポイント」とした。この「ポイント」にはまた、これまでに個人が培ってきた個性や特技を地域で発揮することで、お互いの顔が見えるようなまちづくりができるのではないかという思いが含まれている。

委員長：他グループで確認したいことがあれば挙手をお願いしたい。

委員：目標4で気になる言葉として「ふれあいのまちづくりの推進」があるが、これは役所言葉の印象が強く、市民がつくったものには見えないと思う。

事務局：「発展強化」に抵抗があったため、「推進」とした。「推進」でも固いのであれば、「すすめる」とするのではどうか。

委員：「すすめる」のは市民なのか。

事務局：その通りである。

委員：ふれあいのまちづくりについては、重要な事業であり、すべての基本目標にかかわると思う。ここで挙げてしまうと、別の基本目標では推進しなくても良いという印象を受けかねない。

事務局：具体的な取り組みとして、ふれあいのまちづくりの記載をした次第である。今、推進できていない状況があるため、ふれあいのまちづくりを市民に説明するところから始める必要があると思い、その第一歩として今回の「ポイント」に入れることを考えた。

	委員：委員会において、ふれあいのまちづくりの内容を常に議論している実感はある。ふれあいのまちづくりをより活性化しないと地域福祉につながらないと考えた。ふれあいのまちづくりをすすめるというよりも、「参加する」という感覚に近い。 事務局：このような具体的な部分は、今後の議論に該当すると考える。各基本目標の推進方法を考えた際に、「ふれあいのまちづくり」を市民主体でどのように進めるかという議論となるはずだ。今回の議論で確認するのは、アンケート実施における基本目標の「説明」についてである。 委員長：基本目標をどのように説明するのかという側面において、この議論は重要だと考える。 事務局：本日は、基本目標を説明するために「ポイント」を検討している。そのため、このような議論があっても良いとは思いますが、ふれあいのまちづくりの方向性については、基本目標を具体的に進めるための取り組みについて議論をするときに取り上げてはどうか。 委員長：基本目標の説明というよりは、これは方法に近いということか。この点については、たしかに明確に分けた方がよいと思われる。 事務局：今後、基本目標にしたがって具体的な取り組みを考える際、ふれあいのまちづくりの取り組みは、どの基本目標にも関わると思う。具体的な取り組みを考えると、ふれあいのまちづくりを意識しながら検討をしていただきたい。 委員：C班において、ふれあいのまちづくりを外すべきではないと思う。ふれあいのまちづくりが基盤となるので、ふれあいのまちづくりを基本理念に加えるのではどうか。 委員長：個人的には、それは難しいと考える。委員の皆さまの意見を伺いたい。 委員：基本目標のひとつひとつに記載するよりは、すべてに通じる位置づけにあるところに追加したい。 事務局：賛同はできるが、他方で、ふれあいのまちづくりにはさまざまな機能があり、基本目標に該当する取り組みは異なってくると思っている。たしかに、すべてに関わると捉えられるが、計画策定の上では、各基本目標ごとに、それに合ったふれあいのまちづくりの機能を取り上げていくことを意識していただきたいと考える。 (委員からの異議無し) 委員長：いずれにしても基本目標4では「ふれあいのまちづくり」に関する記述を残すという方向でよいか。 事務局：「ふれあいのまちづくりをすすめる」とする。 委員：「ふれあいのまちづくりをすすめる」というフレーズはアンケートのために記載するという理解でよいか。
--	---

	事務局：その通りである。 委員長：変更点についてはご了解いただけたか。 (委員からの異議無し) 委員長：今後もこれらのポイントを重視したい。また、当面はこれらの文言を活用していきたいと思う。 5. その他 委員長：市民へのアンケートについては、次回委員会において、事務局から案を出すとともに、委員の皆さんにもできる範囲でご協力をいただきたい。 ・西東京市・既存調査資料の抜粋の報告 委 員：既存のアンケートについて図書館で情報を収集し、役に立ちそうな質問項目を抜粋した上で事務局に提供した。調査書のコピーと、事務局が作成した抜粋が委員の手元にあるかと思う。これらを計画に役立てていただけると幸いである。 ・案内 「つなげる・まちづくりサミット」に関する案内を行った。 「世田谷×西東京市子育てコム説明会」の案内を行った。 ・次回委員会日程：平成25年11月26日（火）19時～ 田無総合福祉センター2階視聴覚室 以上
--	---